

S-4 気仙沼市階上地区

2011年12月31日(土)

報告者名	相澤 卓郎	被調査者生年	1930年(男)
調査者名	梅屋 潔	被調査者属性	農業
補助調査者	相澤 卓郎		

お年とりについて

話者家では、年神、恵比寿・大黒天、大麻、御幣束、スカシ、キリコを稲葉(あきば)神社から買っている。これは毎年地区ごとに相談して決められた係の人が持ってくるものになる(稲葉神社の例大祭は3月25日と10月25日。今年は10月25日、例大祭の日に係の人が配布した)。値段は毎年300円払っているのだが、特に決まりはなく払う人の気持ち次第で変動するという。星の玉は近くの農協で買っている。正月飾りの準備が始まるのは年末で、だいたい28日ごろからしめ縄を作り始める。神棚に飾るのは5本のしめ縄で、他に玄関や井戸、離れに飾り付けるものも作る。飾り付けには特に順番は決まっていない。飾る位地は、向かって左側に年神、その右隣から順に恵比寿・大黒天、星の玉を貼っていく。神棚の天井にはしめ縄、キリコを飾る。スカシは神棚の下に貼り付けていく。階上(はしかみ)地区のスカシは鹿折八幡のものとは異なり、コピーされただけの切られていないものである。神棚の上には御幣束や松の枝が飾られ、また恵比寿・大黒天の木彫りの像が置かれている。本来なら去年の飾りは撤去して捨ててしまうのだが、今年は稲葉神社の宮司が津波で家を流されてしまい、正月飾りの準備が出来ていないのだという。今年、神社から買ったのは年神、御幣束、大麻のみで、他のキリコやスカシ、恵比寿・大黒天は去年のものをそのまま使用することにした。

飾り付けの最後には神棚に餅を供える。餅は2段のものを1つと数え、年神の下に1つ、神棚の手前に12並べる。12という数は1年を表してのことだが、並べる数は各家で異なる。本来は大年神の棚には自宅をついた餅を供える。

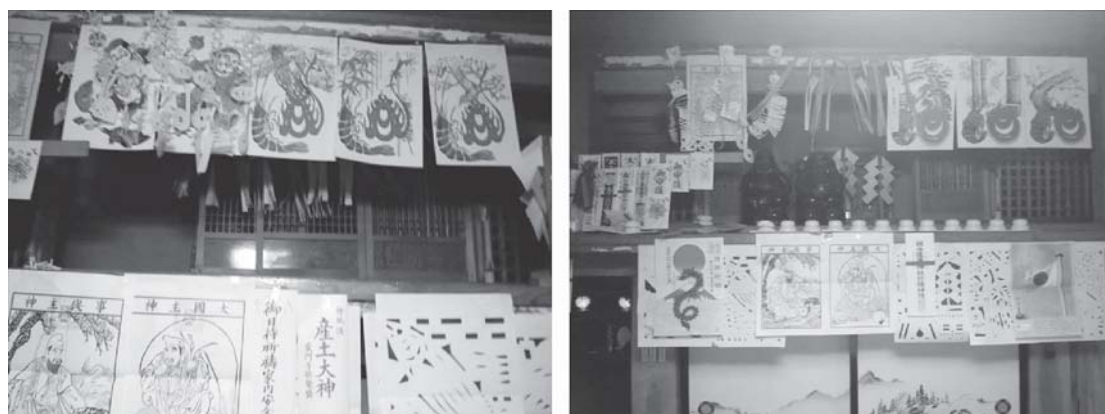


写真1、2 左が今年の飾り付けを行う前、右が飾り付けをした後である。この飾り付け後の写真のうち下に並んだものが去年からのもの。



写真3、4、5 それぞれ左上が玄関、右は離れ、左下は井戸のしめ縄。

飾り付けをおこなうのは昼過ぎから夕方の中で、終える頃には夕飯になる。12月31日から1月3日にかけては朝、晩に神様に供える御膳を用意し、神棚の下に供える。31日に午前中に並ぶのは基本的にナメタガレイの煮つけ、刺身、ご飯とお吸い物、そしてお神酒になる。夕飯に並ぶのはこれと全く同じ内容で、神様と同じものを自分たちも食べることで厄災等を祓おうということである。正月の期間も、基本的に自分たちの食べるものと同じものを供える。

玄関や離れなどの飾り付けは午前中のうちにおこなう。玄関には5本のしめ縄と松、井戸と離れには3本のしめ縄を飾る。近藤家に井戸が出来たのは昭和32年3月のことで、それまでは近所の家から水を貰っていたので、以前はそこにも飾り付けをしていた。